

リ握リ左足ヲ一步後方ニ開キ弁ヲ開放シタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ螺旋廻ヲ徐々左方ニ旋回シテ弁ヲ全ク閉鎖シ兩手ヲ放テ體ヲ起シツ、左足ヲ右足ニ引着ケ其ノ位置ニ停止ス

第一消防員ハ噴水ノ止ルト同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ左手ニテ管槍ヲ起シ右手ヲ垂レツ、之ヲ下方ニ滑走セシメ左手ヲ放テ管槍ノ結合部ヲ右足外側ニ卸シテ垂直ナラシメ右掌ヲ下ニシ輕ク頭部ヲ支ヘ左手ハ自然ニ垂下シテ消火點ニ正面ス

第三 放水準備解崩

第三十一條 放水準備ヲ解崩シ水管ヲ車ニ卷カシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方——崩セ

「崩セ」ノ令ニテ第一消防員ハ右足ニテ水管ノ端末ヲ踏ミ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ管槍ヲ半左方ニ傾ケ右掌ヲ上ニシ管槍ノ結合環ヨリ約二寸上部ヲ左掌ヲ下ニシ約一尺ノ間隔ヲ置キテ管槍ヲ取り之ヲ左方ニ旋回シテ水管ヨリ離脱シ上體ヲ起シ第二十九條第二號々令ニ依リ持チタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ管槍ヲ右腋間ニ挾持シ肘ヲ脇ニ着ケ右廻轉ヲ爲シ水管ノ左側ヲ前進シ左車輪ヲ通過シ左向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツ、一步前進シテ停止シ更ニ半左向ヲ爲シ轆木ノ後方延線上ニ於テ車尾ノ

中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ左手ニテ匣蓋ヲ開キテ其ノ手ヲ放テ右手ニテ管槍ノ頭部ヲ右方ニシ之ヲ匣内ニ納メ次ニ第二十九條第二號々令ニ依リ渡シタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ消火栓螺旋廻ヲ第二消防員ヨリ受取り其ノ把手ヲ右方ニシ匣外ニ出シテ匣内ニ納メ次ニ第三消防員ヨリ鍵及水管螺旋廻ヲ受取り納匣シ右手ニテ匣蓋ヲ閉チ鋼鎖匙ヲ上ニ向ケ左手ニテ鎖匙ヲ嵌メ右手ニテ鋼鎖匙ヲ締メ右足ヲ一步左方後面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ車ニ對スル定位ニ就ク

第二消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二十九條第二號々令ニ於テ消火栓螺旋廻ヲ其弁軸ニ嵌メタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ兩手ニテ拔キ取り螺旋部ヲ兩足間前ニ置キ右手ヲ放テ上體ヲ起シ左手ハ其ノ儘螺旋廻ヲ垂直ニ持チ其肘ヲ屈シ之ヲ自然ニ脇ニ着ケ第一消防員ガ匣蓋ヲ開クヲ俟テ左手ヲ右ニ舉ケツ、右手ヲ加ヘ第二十九條第二號々令ニ於テ螺旋廻ヲ受取りタルトキト同一ニ持チ右足ヲ一步右方前面ニ開キ右願シテ其ノ螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ右足ヲ左足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ第三消防員ガ鍵及水管螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ左向ヲ爲スト同時ニ右向ヲ爲シテ前進シ第十四條ニ規定セル進路ヲ經テ車ニ對スル定位ニ就キ第十五條號令ニ於ケルト同一動作ヲ爲シ第三消防員ト協力シテ轆臂ヲ體

骨ノ高サニ扛ク
 第三消防員ハ左足ヲ一步左方ニ開キ第二水管ニ跨リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ
 兩手ニテ水管結合部ヲ解放シ上體ヲ起シツ、左足ヲ水管ノ左方右足尖前ニ移シ第一
 水管ノ左側ヲ前進シ消火栓ノ左側中央部ニ至リテ停立シ左向ヲ爲シ兩手ニテ水管螺
 旋廻ヲ腰部ヨリ拔キ取り右手ニ持チ第二十九條第二號々令ニ於テ水管ヲ附着シタル
 トキト同一ノ姿勢ニ準シ右脚ヲ屈シ水管螺旋廻ニテ結合部ヲ緩メ之ヲ左手ニ持チ換
 ヘ其ノ螺旋廻部ヲ右方ニ向ケ消火栓縁ト並列セシメテ左足尖前ノ地上ニ置キ水管結
 合部ヲ兩手ニテ解放シ之ヲ左足外側ノ地上ニ置キ左手ニ水管螺旋廻ヲ持チ右脚ヲ伸
 シ上體ヲ右方前面ニ傾ケ右手ニテ消火栓鍵ノ把手ヲ握リ消火栓蓋ヲ閉シ其ノ鍵ヲ拔
 キ取り之ヲ左手ニ移シツ、上體ヲ起シ左顧シテ左手ニ持チタル鍵ト螺旋廻トヲ第一
 消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ直ニ左向ヲ爲シテ前進シ第二消防
 員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ協力シテ轆轤ヲ髑骨ノ高サニ扛ク
 二、水管——卷ケ

「水管——」ノ令ニテ第一消防員ハ第十九條「換ヘ」ノ令ト同一姿勢ヲ爲シ上體ヲ稍前
 方ニ傾ケ

「卷ケ」ノ令ニテ他ノ消防員ト同時ニ車ヲ押シツ、水管ノ左側ヲ駈歩前進シ第二及第
 三消防員ガ第二水管ノ端末ニ達スレバ速歩ニ移リ約三步前進シテ他ノ消防員ト同時
 ニ停立シ右手ヲ放チツ、上體ヲ正シ半右向ヲ爲シテ一步前進シ第二水管ノ左側ニ移
 リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニテ端末ノ水管結合環ヲ持チ半左向ヲ爲シテ
 車尾ニ正面シ左手ヲ加ヘ兩手ニテ之ヲ轆軸ノ革環ニ嵌人シ兩掌ヲ相對セシメテ水管
 ヲ兩手ニ握リ第二消防員ノ轆ヲ回轉スルニ準ヒ兩手ニ水管ヲ引キ兩手ヲ滑走セシメ
 テ徐々ニ後進シツ、水管ヲ平等ニ卷キ第三消防員ノ注意シテ停車スルヲ俟チ兩
 手ヲ放チ上體ヲ起シ右回轉ヲ爲シテ第二水管ノ左側ヲ前進シ第一水管ノ結合環約五
 寸左側ニ至リ停立シテ左向ヲ爲シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ニテ其結合環
 部ヲ把リ半左向ヲ爲シツ、上體ヲ起シ右手ヲ先ニシ兩拳ヲ接着シテ結合環ノ覆布部
 ヲ握リ兩肘ヲ脇ニ着ケ第二消防員カ一步前ニ來リ半右向ヲ爲スヲ俟チ直ニ左足ヲ一
 歩前方ニ開キ第一水管ヲ第二水管ニ結合セシメテ之ヲ受取り膝ヲ屈スルコトナク上
 體ヲ俯シ結合部ヲ右足前ノ右方ニ置キ半左向ヲ爲シツ、上體ヲ起シ右足ヨリ第二水
 管ノ左側ヲ前進シ車尾ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二水管ト同
 一動作ニ依リ水管ヲ卷キ始メ第一水管ヲ轆ニ卷キ終リ兩手ヲ放チ上體ヲ左方ニ傾ケ

兩手ニテ輅止ヲ施シ上體ヲ正シツ、之ヲ起シ第三消防員カ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ轅木ノ後方延線上ニ移リ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、停立ス

第二消防員ハ車ヲ挽キ第三消防員ト同時ニ水管ノ右側ヲ駈歩前進シ第二水管ノ端末ニ至レハ速歩ニ移リ約三步前進シテ停立シ第三消防員カ車頭ニ於テ右廻轉ヲ爲スヲ俟テ兩手ヲ放テ右廻轉ヲ爲シ約一步前進シテ右方ニ於ケル輅ノ把手ニ正面シ之ト約一尺ノ距離ヲ距テ、停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニ其ノ把手ヲ握リ第一消防員カ第二水管ノ結合環ヲ輅ノ革環ニ嵌メ終ルヲ待テ兩手ニテ交互ニ把手ヲ引キツ、輅ヲ廻轉シテ徐々ニ前進シ第一消防員ト協力シテ第二水管ヲ輅ニ卷キ第三消防員ノ注意シテ停車スルヲ待テ把手ヲ放テ上體ヲ起シ半左向ヲ爲シテ一步前進シ更ニ半右向ヲ爲シ車側ニ沿フテ前進シ之ヲ通過スレハ半右向ヲ爲シ第二水管ノ結合環五寸前ニ至リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニ之ヲ把リテ半右向ヲ爲シツ、上體ヲ起シテ前進シ第一消防員ノ一步前ニ至リテ停立シ半右向ヲ爲シテ第一消防員ニ正面シ之ト同時ニ左足ヲ一步前方ニ開キ左手ニテ水管結合環ノ覆布部ヲ握リ右手ニテ第一消防員ノ把持セル結合環ニ結合シテ兩手ヲ放テ右廻轉ヲ爲シテ前進シ右車輪

ノ後方延線ヲ經テ半左向ヲ爲シ車側ニ沿フテ行進シ之ヲ一步通過シテ停立シ左向ヲ爲シ一步前進シ更ニ左向ヲ爲シ擦足シテ舊位置ニ復シ前ニ第二水管ヲ卷キタルトキト同一ノ動作ニ準シ第二水管ヲ輅ニ卷キ終リ第一消防員ガ水管ヲ放テ輅止ヲ嵌メ終ルヲ俟テ同時ニ把手ヲ放テ上體ヲ起シ第三消防員ガ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ位置ヲ移シ右方ニ於ケル輅ノ把手ニ正面シ之ト約一尺ノ距離ヲ隔テ、停立ス

第三消防員ハ水管ノ左方ニ於テ第二消防員ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ停立シ直ニ第二十七條「後へ」ノ令ト同一動作ヲ爲シ車頭前ニ於テ右廻轉ヲ爲シ一步左方轅木ノ延線上ニ移リ轅木ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、左掌ヲ下ニシ轅木ヨリ約五寸ノ間隔ヲ置キ右轅臂ヲ上ヨリ握リ右手ヲ其ノ儘滑走セシメテ左手ニ準スル間隔ノ位置ニ移シ第二消防員ガ輅ヲ回轉スルニ準ヒ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ

第二水管ガ車尾ヨリ約六尺ヲ剩スニ至レバ他ノ消防員ニ「繼ケ」ト注意シテ停車シ第二消防員ガ第二水管ノ結合環ヲ右手ニ把リ上體ヲ起シ前進スルニ準ヒ車ヲ後退セシメ第二消防員ガ第一消防員ノ一步前ニ至リ停立スルニ至レバ停車シ第二消防員ガ再ビ輅ノ把手ヲ把ルヲ俟テ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ第一水管ヲ輅ニ卷キ終レバ停車シ第一消防員ガ輅止ヲ施シ上體ヲ起スヲ俟テ車ヲ其ノ位置ニ移シ膝ヲ屈ス

ルコトナク上體ヲ俯シ車頭ヲ徐ニ地上ニ置キ上體ヲ起シ其ノ位置ニ停立ス
第三十二條 各消防員ヲ車ニ對スル定位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
定位ヘ——進メ

「進メ」ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一步左方後面ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケ第二消防員ハ右回轉ヲ爲シ一步前進シ第三消防員ハ一步右方ニ移リ更ニ一步前進シテ左轅臂ヲ越ヘ右回轉ヲ爲シ各消防員擦足シテ車ニ對スル定位ニ就ク

第四章 應急操法

第三十三條 各消防員ニ對スル定位ニ在ルトキ應急取扱方ヲ爲サシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス但シ本條ノ動作ハ迅速ニシテ駈歩トス

急キ備ヘ——

此ノ號令ニテ各消防員第二十九條各號々令ニ規定セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備ヲ爲ス

始メ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第一號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行ヒ放水ヲ開始

止メ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第二號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行ヒ放水ヲ停止ス但シ消火栓弁ノ閉鎖方ニ限リ徐々トス

卷ケ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十一條各號々令ニ規定セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ水管ヲ卷ク

附

錄

消防規則

天下の消火器

秋葉山 粉劑消火器
天狗印

特價金貳圓五拾錢

- ▲本器は輸入品に優る最も進歩したる輕便にして一般家庭用に適する効力偉大の粉劑消火器なり
- ▲本器は最近に於ける山形市及米澤市の各警察署長其他各縣の試験有効證明書を有す
- ▲本器は一度火災に使用して粉劑缺乏すれば十ヶ年間何回にても補充品を無料にて提供す
- ▲本器は火災豫防組合又は團體にて購買の大割引便宜法あり▲詳細は郵券貳錢封入照會あれば直に回答す

發賣元 東京神田區餌鳥町 **湯本商店**
特約店 山形市旅籠町新道 長崎屋 自轉車店
 米澤市柳町 會津屋 比佐清右衛門

附 録

一 消防組規則

明治二十七年二月 (三十年十一月) (大正二年十月)
勅令第一五號 (勅令第一〇號) (勅令第二九六號)

第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

組頭及小頭ハ警察署長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス

消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

(實例) 消防組ハ組頭小頭消防手等ノ職員ヲ以テ組織スルモノナレハ蒸汽ポンプ又ハ蒸汽ポンプ船等ノ設ケアル場所ト雖モ此以外ニ特別機關ヲ設クルコトハ出來サルヘシ何トナレバ若シ此外ニ別種ノ名義ヲ以テ隨意ニ職員ヲ設クルトキハ遂ニ規則ノ統一ヲ見ルコト能ハサルヘケレバナリ

信號擔當者ヲ消防手以外ニ置クモノナキニアラスト雖モ信號ノコトモ消防事務ノ一

部タレバ信號擔當者ノ如キモ消防手中ヨリ採用セサレバ規則ノ精神ニ副ハサルヘシ

第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス

小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ハルモノトス

第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又

ハ組頭若ハ小頭之レカ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖モ警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ

危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレバ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若ク

ハ其ノ受任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第九條 消防組ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム

第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其市町村ノ負擔トス

第十四條 (刪除)

第十五條 (刪除)

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若クハ一部ヲ準用シ水災

ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコト

ヲ得

第十七條 此ノ規則ハ東京市、大阪市並沖繩縣ノ郡及嶋嶼ニ之ヲ適用セズ

第七條ノ規定ハ東京市及大阪市ニ於ケル消防組ニ之ヲ適用ス

第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ
第十九條 此ノ規則中ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及沖繩縣ノ區ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之レヲ準用ス

二 消防組規則施行細則

明治三十一年六月
縣令第四八號

(明治三十九年三月三十一日)
(縣令第一五號ヲ以テ改正)
(大正二年十月縣令第六九號改正)

第一章 組織及監督

第一條 火災警戒防禦ノ爲メ必要ノ地ニ消防組ヲ設置ス其區域部ノ區分名稱及定員ハ別ニ之レヲ定ム

市町村長ニ於テ消防組設置ノ必要ヲ認メタルトキハ其區域定員及部ヲ分ツノ要否並ニ被服手當ノ給與器具建物等ノ設備其ノ他消防費ノ負擔ニ付市町村會ノ決議ヲ具シ知事ニ申請スルコトヲ得其變更及廢止ニ付テモ亦同シ

第二條 警察署長警察分署長ハ其管轄内ノ消防組ヲ指揮監督ス
警察官吏ハ事緊急ニ際シ直ニ組頭以下ヲ指揮スルコトヲ得

第三條 組頭ハ小頭以下ヲ小頭ハ部下消防手ヲ指揮監督ス

第四條 警察署長警察分署長ハ隨時必要アリト認ムルトキハ管轄内ノ消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持器具ノ完備等ヲ監督スベシ

第五條 警察署長警察分署長ハ消防組ノ警戒巡邏ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ定メ之レヲ行フヘシ

第六條 消防手ハ其ノ消防組ノ設置區域内ニ住居シ年齡滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナルモノヲ選ヒ之ヲ任命ス
組頭小頭ハ消防手中ヨリ選任ス

第七條 左ニ掲クルモノハ消防組員タルコトヲ得ス

- 一 公權褫奪及停止中ノ者
- 二 禁治産中ノ者
- 三 公費ヲ以テ救助中ノ者 但水火其ノ他ノ災害ニ罹リ一時救助ノ者ハ此限ニアラス
- 四 懲戒處分ニ據リ消防手ノ職務ヲ免セラレ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期後滿三年ヲ經過セサル者

第八條 消防組員前條各項ノ一ニ觸ル、者アルトキハ當然其ノ職ヲ失フモノトス
第九條 消防組ニハ組頭及小頭各一名其ノ部ヲ區分シタルトキハ各部ニ部長トシテ小頭一名ヲ置ク

第十條 部ノ區分アル組頭ハ警部長其ノ他ノ組頭及小頭以下ハ警察署長警察分署長之レヲ命免ス

第十一條 警察署長警察分署長消防手中ヨリ一名若クハ二名部長代理者ヲ命シ置クヘシ

第十二條 消防手ノ役割ハ組頭ニ於テ之レヲ定メ警察署長警察分署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 土地ノ狀況ニ依リ消防組ヲシテ水災警戒防禦ノ事務ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ必要ヲ認ムルトキハ市町村會ノ決議ヲ具シ申請スルコトヲ得

第十四條 水災警戒防禦ニ關スル規程ハ本則第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條ヲ除クノ外之ヲ準用ス

第二章 消防器具及被服

第十五條 消防組又ハ部ニ設備スヘキ器具及建物ハ概ネ左ノ如シ但水防ニ關スル器具ハ土地ノ狀況ニ依リ便宜之レヲ設備スルモノトス

器具 一繩 一旗 一指揮旗 一高張提灯 一弓張提灯又ハ騎馬提灯
一唧筒 一梯子 一水桶 一大鍵繩 一刺叉 一鳶口 一信號鐘

建物 一事務所 一器具置場 一警鐘臺

第十六條 消防組ノ事務所ハ組頭ノ自宅ヲ以テ之ニ充ツ特ニ他ノ場所ニ設置スルノ必要アルトキハ組頭ヨリ警察署長警察分署長ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第十七條 警鐘臺ノ位置ハ組頭ニ於テ之レヲ定メ警察署長警察分署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 組頭ハ毎年一回以上消防器具ノ種類員數其ノ他ノ狀況ヲ市町村長ニ報告スヘシ

第十九條 消防組員ニハ左ノ被服ヲ給與スヘシ但シ帽ハ當分ノ内之レヲ給與セサルコトヲ得
一帽 一頭巾 一法被 一股引 一帶

組頭小頭及部長代理者タル消防手ニハ前項ニ拘ラス其ノ被服ヲ給與スルコトヲ得一上衣 一袴

第二十條 前條被服ハ退職等ノ際之レヲ返納セシム停職ノモノハ一時返納セシムルコトアルヘシ

第二十一條 消防器具及被服ノ制ハ別紙附録ニ據ル

第三章 手當及賞與

第二十二條 消防組員ニハ左ノ區別ニ依リ年手當及勤務手當ヲ給與ス但土地ノ狀況ニ依リ之レヲ増減シ若ハ給與セサルコトヲ得

役名	手當年額	勤務手當	
		演習及出陣手當一度額	警成巡邏手當一度額
組頭	拾五圓以內	四拾錢以內	貳拾錢以內
小頭	拾圓以內	參拾錢以內	拾五錢以內
消防手	貳圓以內	貳拾錢以內	拾錢以內

第二十三條 年手當ヲ給與スルトキハ別ニ之レヲ指定ス

年手當ヲ受クルモノニハ勤務手當ヲ支給セサルコトヲ得

第二十四條 消防組員職務上死傷シタルトキハ左ノ區別ニ依リ死傷手當ヲ給與スヘシ死亡手當

吊祭料 金拾圓以上參拾圓以下
遺族扶助料 金五拾圓以上百圓以下
傷痍手當

一等 年金拾五圓以上參拾五圓以下

終身不具トナリ自用ヲ辨シ能ハサルモノ

二等 一時金參拾圓以上六拾圓以下

終身不具トナルモ自用ヲ辨シ得ルモノ

三等 一日金拾錢以上五拾錢以下

負傷ノ爲メ休業シタルモノ

療治料 實費

第二十五條 死傷手當ヲ支給スル順序左ノ如シ

- 一 弔祭料ハ職務ノ爲メ死ニ至リタルモノニ限リ最近ノ親屬又ハ故舊ニ之レヲ給シ弔祭ヲ行ハシム
- 二 遺族扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦ナキトキハ孤兒ニ給ス又孤兒アルモ二十歳以上ナルカ又ハ結婚シタルモノアルトキハ之レヲ給セス但孤兒二十歳以上ト雖モ癡篤疾等ニシテ生業ヲ營ムコト能ハサルトキハ之ヲ給ス
孤兒數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ家名繼襲者ナキトキハ長子ニ給ス又長子ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス但シ養男子女ハ家名繼襲者ニ限ル
扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナキトキハ其ノ死者ノ戶籍内ニアル二十歳未満ニシテ結婚セス又ハ二十歳以上ト雖モ癡篤疾等ニシテ生業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之レヲ給養スルモノナキトキハ其ノ兄弟姉妹ニ之レヲ給ス
父母祖父母兄弟姉妹等ニ對スル給與ノ順序ハ死者ト親屬ノ關係最モ近キモノ一人ニ之レヲ給ス
- 三 傷痍手當ハ本人ニ之レヲ給ス

四 療治料ハ藥價其他直接療治ノ爲メニ要シタル費用ヲ本人ニ給ス

第二十六條 終身傷痍手當ヲ受クルモノニシテ公權ヲ剝奪セラレ又ハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ之レヲ受クルノ權利ヲ失フ

第二十七條 終身傷痍手當ヲ受クモノニシテ左ノ事項ノ一ニ該ルモノハ其期間給與ヲ停止ス

- 一 公權ヲ停止セラレタルトキ
 - 二 失踪シタルトキ
- 第二十八條 終身傷痍手當ヲ受クルモノ其生業ノ妨害去リ自用ヲ辨スルニ至リタルトキハ其給與ヲ止メ又ハ一時傷痍手當ヲ給與スルコトアルヘシ
- 第二十九條 終身傷痍手當ハ之レヲ受クヘキ事由生シタル翌月ヨリ起算シ其權利ヲ失ヒタルトキ又ハ停止シタルトキハ左ノ方法ニ依ル
- 一 公權ヲ剝奪セラレ又ハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其決定日ヲ以テ給與ヲ止ム
 - 二 公權ヲ停止セラレタルトキハ確定判決ノ日ヲ以テ給與ヲ止メ刑期滿限ノ翌日ヨリ復給ス

三 生業ノ妨害去リ自用ヲ辨スルニ至リタル爲メ給與ヲ止メタルトキハ其ノ命令ヲ發シタル月ノ翌月ヨリ給與ヲ止ム

四 死亡ノトキハ其ノ月全額ヲ給ス

第三十條 終身傷痍手當ヲ受クルモノニシテ死亡シ又ハ其ノ手當ヲ受クヘキ權利ヲ失フベキ事由生ジタルトキハ最近ノ親屬ヨリ給與ノ證書ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

給與ヲ停止スヘキ事由ニ係ハルトキハ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第三十一條 終身傷痍手當ヲ受クルモノニシテ改氏名又ハ他ニ轉居シタルトキハ所轄警察官署及市役所町村役場ニ届出ヘシ

警察官署ノ所轄ヲ異ニスル地ニ轉居シタルトキハ其ノ旨ヲ雙方ノ警察官署及市役所町村役場ニ届出ツヘシ

第三十二條 終身傷痍手當ノ證書ハ賣却讓與又ハ質トナスコトヲ得ス

第三十三條 終身傷痍手當ノ證書ヲ毀損亡失シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ書換又ハ再渡ヲ縣廳ニ願出ツヘシ

第三十四條 死傷手當ハ之レヲ受クヘキ事由生ジタル後三箇年内ニ請求セサレバ其ノ

權利ヲ失フモノトス

第三十五條 死傷手當ハ關係者ノ請求ニ依リ知事之レヲ決定ス其ノ決定ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十六條 消防組員ニシテ其ノ功勞顯著ナル者ニハ功勞手當ヲ給ス

前項ノ手當ハ物品ヲ以テ給與スルコトアルベシ

第三十七條 功勞手當ノ給與ハ警察署長警察分署長ノ具狀ニ依リ知事之レヲ行フ

第三十八條 非常ノ際ハ時宜ニ依リ年手當又ハ勤務手當ハ外賄ヲ給與スルコトアルヘシ

第三十九條 消防組ニ應スル雜費ハ其ノ必用ニ應シ便宜現品又ハ實費ヲ以テ給與スヘシ

第四十條 市町村長ニ於テ消防組員ノ諸手當ヲ變更セントスルトキハ市町村會ノ決議ヲ具シ申請スルコトヲ得

第四章 信號及演習

第四十一條 信號ノ種類左ノ如シ

信號ハ警鐘臺ニ之レヲ表示スヘシ

一 非常信號

○—○—○—○

(四點連打)

警鐘臺ヨリ五町以内ノ出火ヲ報スルモノトス

二 近火信號

○—○—○—○

(三點連打)

其ノ市町村内ニシテ凡五町以外ノ出火ヲ報スルモノトス

三 應援信號

○—○—○

(二點連打)

應援ノ必要アルトキ之レヲ報スルモノトス

第四十二條

信號ハ警察官吏又ハ信號擔任者ニ於テ之レヲ報スベシ信號擔任者ハ應援區内ノ出火ヲ除ク外警察官吏ノ指揮アラサレバ應援信號ヲ報スルコトヲ得ス

第四十三條

警察署長警察分署長ハ信號ヲ報シタル際消防組員ノ參集スヘキ場所ヲ豫定シ消防組員ニ告示スベシ

第四十四條

警察署長警察分署長ハ消防組ノ應援區域ヲ定メ消防組員ニ告示シ及關係市町村長ニ通知スベシ

第四十五條

消防組ノ演習ハ毎年一回以上之レヲ行フ其ノ期日及方法ハ警察署長警察分署長之レヲ定ム

第四十六條

演習ヲ行ハントスル時ハ警察署長警察分署長ハ豫メ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長ニ於テ演習ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ立會フヘシ

第四十七條

演習ノ際警察署長警察分署長ハ左ノ各項ヲ檢閲スヘシ

- 一 一定ノ場所ニ參著ノ遲速
- 二 途中行進及現場ノ進退
- 三 消防器具ノ運用及熟否
- 四 消防器具ノ整否及保存
- 五 消防組員ノ身體強弱
- 六 被服ノ保存及良否

第五十條

第五章 服務規律及懲戒

第四十八條

消防組員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ辭職セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ願出ツヘシ

第四十九條 一週間以上ノ旅行又ハ消防ニ従事シ能ハサル疾病ニ罹リタルトキハ組頭小頭ハ警察署長警察分署長ニ消防手ハ組頭又ハ小頭ニ届出ツヘシ

第五十條 消防組員ニシテ所屬消防組設置區域外轉居セントスルトキハ警察署警察分署長ニ届出ツヘシ

其届出ヲ爲サス及居所不明ノ者ハ消防手タルノ職ヲ失フ

第五十一條 消防組員ノ願届書ハ小頭ハ組頭消防手ハ小頭組頭ヲ經由スヘシ

第五十二條 消防組員ハ左ノ諸項ヲ遵守スベシ

- 一 強迫ケ間敷所爲又ハ粗暴ノ舉動アルベカラス
- 二 警察署長警察分署長ノ許可ナクシテ金錢物品及酒食ヲ請求シ又ハ贈與ヲ受クベカラス
- 三 定制ノ被服及消防器具ハ私用ニ供スヘカラズ
- 四 自己専用ノ器具ハ平素注意シ亡失毀損スヘカラス
- 五 勤務ニ服スルトキハ定制ノ服裝ヲナスヘシ若シ出先ヨリ駆付タルトキハ其旨指揮官ニ届出ツヘシ

六 信號アリタルトキハ速ニ器具ヲ調ヘ現場ニ駆付クヘシ

七 指揮官ノ命アルニアラサレハ消防ノ爲メ家屋ヲ毀損スヘカラス

八 鎮火後ト雖モ點檢ヲ受ケタル後ニアラサレバ退場スヘカラス

九 消防器具ヲ使用シタルトキハ其ノ時々丁寧ニ掃除スベシ

十 事故ヲ唱ヘ代人ヲ出スヲ許サス

第五十三條 消防組員ノ警戒ハ部ノアル消防組頭ハ警部長其ノ他ハ警察署長警察分署長之ヲ行フ

第五十四條 懲戒ハ左ノ例ニ依ルベシ

一 解職

警察官吏又ハ上級者ノ命令ニ反抗シ其他職務ヲ辱カシムル所爲アリテ其情狀最モ重キ者

二 停職

警察官吏又ハ上級者ノ命令ニ服從セス若クハ故サラニ職務上ノ規則ニ違背シ又ハ怠慢ノ所爲アルモノ

三 譴責

所犯情狀輕キモノ

第五十五條 懲戒ハ言渡書ヲ作リ之ヲ送達シテ執行ス
 第五十六條 消防組員ノ事務取扱手續ハ組頭ニ於テ之ヲ規定シ警察官署ニ届出ヘシ
 附則

第五十七條 本則ニ依リ市町村長又ハ消防組員ヨリ差出スヘキ書類ハ總テ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第五十八條 既設ノ消防組設置區域及部ノ區分名稱定員並被服手當ノ給與器具建物等ハ市町村會ノ諮問ヲ要セス繼續ノ効ヲ有スルモノトス

第五十九條 明治二十七年縣令第三十四號同年縣令第四十七號同年縣令第四十八號同年縣令第四十九號同年訓令第三十七號同年訓令第六十一號同年訓令第六十二號同年訓令第六十三號同年訓令第七十一號達ハ廢止ス

(附錄)

纏旗高張提灯ノ圖例

地	實	製	式	部ノ設アル消防組	部ノ設ナキ消防組及消防組ノ部	章	形	狀

纏	旗	高張提灯
垂レ白地トシ地質其ノ他適宜	白地トシ地質適宜	
頭上飾ヲ大小形状適宜	樺三尺五寸 樺二尺八寸	縦直徑曲輪ヲ除キ二尺六寸 横直徑一尺二寸
設ルチ要セス	黒線幅二寸五分 赤線幅二寸二分	黒線幅二寸五分 赤線幅二寸二分
黒線幅三寸一條	赤線一條余ハ同	赤線一條余ハ同
如	如	如
圖	圖	圖

消防組員被服其ノ他ノ圖例

組頭	小頭	部長タル頭	部代理者タル長	消防手	消防手	消防手	形	狀
白地トシ地質適宜	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
横二尺 縦一尺三寸	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
黒線幅八分一條 赤線幅六分三條	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
縦直徑曲輪ヲ除キ七寸五分	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
横直徑八寸 赤線幅六分三條	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
縦直徑上下曲輪ヲ除キ一尺五分	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
横直徑五寸五分	同上	同上	同上	同上	同上	同上		
如	如	如	如	如	如	如		
圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖		

帽	外 套	
	袖章	製式
濃紺又ハ黒羅紗	袖口ヨリ約六寸ノ部ニ銀色略日章三箇ヲ附ス	八寸袖ノ長ハ腕ノ關節ヨリ延ルコト五分襟ノ幅ハ二寸五分胸ノ重徑七分内ノ花ニ略日章ヲ刻セル鈕六箇ニ行側部ニ同各三箇腰部ニ帶二箇ヲ附ス覆面留徑五分五厘角鈕三箇襟部ニ紐同後部ニ四箇裾ヲ裂キ左右ノ部ニ物入各一箇ヲ設ク
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	同上	同上
同上	銀色畧日章一箇ヲ附ス余ハ同上	同上
同上		
	如圖	如圖

袴	上 衣		提灯 弓腰差
	袖章	製式	
濃紺又ハ黒羅紗	徑五分銀色畧日章三箇ヲ附シ幅一分五厘蛇腹紐一金糸一條幅一寸黒色織緑線一條ヲ牛面山形ニ纏フ	濃紺又ハ黒羅紗 普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	黒線幅八分一條 赤線幅六分三條
同上	同上	同上	赤線二條余ハ
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	赤線幅六分一條 同余ハ同上
同上	同上	同上	赤線幅六分一條 同余ハ同上
	如圖	如圖	如圖

三 消防組點檢規則

明治三十三年五月 內務省訓令第一六號 (大正二年四月 內務省訓令第五號)

- 第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帶品ノ線法、分解、構成、保存ノ適否ヲ検査スルモノトス
- 第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス
- 第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス
- 第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ
- 第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ着用スヘシ但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ
- 第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ケノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構成ニ關スル検査、現場引上ノ際ニ在リテハ動作及器械器具携帶品ノ線法、分解構成、保存ノ検査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具、被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重検査スヘシ

- 第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ
- 第八條 唧筒其ノ他機械ニシテ組立テアルモノハ毎年行フ演習ノ内其ノ一回ニ限り之ヲ分解シ内部ノ検査ヲ行フモノトス

四 消防組金錢收支物品出納及給與手續

明治三十年六月 訓令第一二〇號

- 消防組金錢物品ノ出納及給與手續左ノ通改正候條消防組ヘハ警察署警察分署ヨリ通知スヘシ
- 第一條 消防組員ノ年手當及勤務手當ハ組頭又ハ部長ニ於テ之ヲ受取各自ニ交付スヘシ
- 第二條 組頭又ハ部長ハ年手當及勤務手當受渡簿ヲ設ケ收支ノ時時登記計算シ其ノ出納ヲ明カニシ毎年一回以上市町村長ノ檢印ヲ受クヘシ年手當及勤務手當ヲ各自ニ交付シタルトキハ受領ノ證トシテ帳簿ニ登記押印セシムヘシ

第三條 物品ノ新調又ハ修繕ハ組頭ニ於テ警察署長警察分署長ノ檢印ヲ受ケ市町村長ニ請求スヘシ

第四條 不用ノ物品ハ組頭ニ於テ現品ヲ市町村長ニ返納シ其ノ品目箇數ヲ警察署長警察分署長ニ報告スヘシ

第五條 物品ノ受渡ハ組頭又ハ部長ニ於テ適宜帳簿ヲ設ケ受拂ノ都度登記整理シ毎年一回以上市町村長ノ檢印ヲ受クヘシ物品ヲ使用者ニ交付シタルトキハ受領ノ證トシテ帳簿ニ登記押印セシムヘシ

第二章 給與

第六條 年手當ノ支給定日ハ市町村ノ定ムル所ニ依ル年手當ハ其ノ勤務月割ヲ以テ之レヲ給ス

新任退職ハ十五日ノ前後ニ區分シ十五日後ニアリテハ月割ノ半額十五日前ニ在リテハ前額ヲ給スヘシ

停職及退職後ノ就職ハ月割ノ日數ヲ計算シ支給スヘシ自己ノ疾病及他ノ事故ニ依リ就職シ難キ日數三十日以上ニ涉ルトキハ其ノ支給ヲ停止ス

第七條 賄ノ給與ハ消防組所屬市町村長ニ於テ執行スヘシ

第八條 死傷手當ヲ請求セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

一 弔祭料ハ遺族又ハ葬祭ヲ引受ケタル者ヨリ其ノ事由ヲ詳記シ醫師ノ檢案書ヲ添付スヘシ

二 遺族扶助料ハ其ノ事由ヲ詳記シ市町村長ノ證明シタル戶籍寫ヲ添付スヘシ

三 傷痍手當ニ其ノ事由ヲ詳記シ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

四 療治料ハ其ノ事由竝ニ治療日數金額ヲ詳記シ主治醫ノ治療費調及相當ノ證憑ヲ添付スヘシ

第九條 終身傷痍手當ハ年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ請求スヘシ若シ權利ヲ失ヒタルトキハ前項ノ期日ニ依ラス請求スルコトヲ得

第十條 削除

第十一條 傷痍手當及療治料ハ傷痍ノ癒ユルヲ待テ給與ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 警察署長警察分署長ハ終身傷痍手當ヲ受クルモノ其ノ權利ヲ失ヒ又ハ停止スヘキ事由生シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第十三條 警察署長警察署長ハ終身傷痍手當ノ給與證書ノ書換又ハ再渡ヲ出願シタル

トキハ其ノ事實ヲ審査シ進達スヘシ
轉居改氏名ノ届出アリタルトキハ其ノ旨警部長ニ報告スヘシ

第三章 物品保管

第十四條 物品ハ總テ警察署長警察分署長之レヲ監督シ組頭又ハ部長ニ於テ保管スヘシ各自専用ノ物品ハ各自之レヲ保管スヘシ

第十五條 保管ノ責アルモノ其ノ物品ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ警察署長警察分署長ヘ届出ツヘシ

警察署長警察分署長事實ヲ審査シ事ノ故意又ハ怠慢ニ出テタルモノト認ムルトキハ其ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

第十六條 組頭部長退職停職ノ際ハ現在ノ物品ヲ帳簿ニ照查引繼ヲ爲シ其ノ旨記入押印シ警察署長警察分署長ノ檢印ヲ受クヘシ

附則

第十七條 明治二十七年訓令第六十六號達ハ廢止ス

五 火事場取締規則

明治二十四年三月
縣令第八號

第一條 燒點ヨリ凡ソ二丁隔リタル場所ヲ以テ非常線トシ左ニ掲クル者ノ外溢リニ線内ニ入ルルヘカラス

- 一 線内ニ家屋其ノ他建物ヲ有シ又ハ居住スルモノ
- 二 前項ノ親屬知人ニシテ救援ヲ爲サントスル者
- 三 線内ノ官衙及公署ニ勤務シ又ハ公務ヲ帶ル者
- 四 線内ノ社寺校舍及商社等ニ勤務スル者
- 五 消防ニ盡力セントスル者

第二條 消防組ノ進行及罹災者ノ財産運搬等ノ節ハ其ノ進路ヲ開通シ障礙スヘカラス

第三條 前二條ニ違背シ制止ヲ肯セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

六 消防手役割準則

明治二十七年八月
訓令第六〇號

消防手役割準則左ノ通相定メ候條消防組ヘ通達スヘシ

一 消防組(部)ニ分チタルモノヲ除ク)及部ノ消防手役割ハ以下各項ニ據リ之ヲ定ムヘ

シ、
 纏持 一人
 旗及高張提灯 一人
 唧筒 一臺ニ付

指揮者 一人

吸管持 一人若クハ二人

管鎗持 一人若クハ二人

水管中持 一人若クハ二人

運轉手 十二人

唧筒大形 十人

全上中形 八人

全上小形 八人

運轉手手代リ

運轉手ニ超過セサル人員ヲ置ク

木製又ハ汲込唧筒ノ指揮者吸管持管鎗持水管中持ノ員數ハ唧筒ニ同シ

運轉手

(木製汲込)唧筒大形 十人

全上 中形 八人

全上 小形 六人

運轉手手代リ

員數ハ唧筒ニ同シ

雲龍水龍吐水ヲ當分使用スルトキハ指揮者筒先持(管鎗持ト同シ)

運轉手及其ノ手代リノ人員ハ汲込唧筒ニ同シ

水運

人員ハ水桶ノ數ニ應シ之ヲ定ム

梯子持 一脚ニ付一人若クハ二人

鳶口持

人員ハ鳶口ノ數ニ應シ之ヲ定ム

信號擔任者 警鐘一臺ニ付二人乃至三人

二 前項ノ各人員ハ土地ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルモノハ増減スルコトヲ得

- 三 土地ノ狀況ニ依リ特ニ消防器械ヲ備ヘタルトキ又ハ器械ヲ備ヘサルモ別ニ役割ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ役割ヲ定ムハシ
- 四 消防組員少數ナルトキハ各掛互ニ兼攝セシムルコトヲ得

七 水防準則

明治四十四年六月
山形縣訓令第三一號

- 一 市町村ハ平素ニ於テ水害ノ際防禦ノ爲出動セシメ得ル人員ヲ調査シ是等人員ニ對シテハ出動ニ關スル相當ノ取極ヲ爲シ置クコト
- 一 警防區域ヲ定メ前項調査人員ヲ適宜ニ配置シテ其ノ受持區域ヲ定メ豫メ之ヲ各自ニ通知シ心得置カシムルト同時ニ一面警察官ニ通知スルコト
- 一 消防組ハ平素ヨリ多少ノ訓練ヲ受ケ比較的ニ一團トシテ有效ナル活動ヲ爲シ得ヘキカ故ニ特ニ橋梁堤防ノ某地點等主要ナル警防地點ヲ以テ其ノ警防區域ト定メ組若ハ部ヲシテ之ヲ分擔セシムルコト
- 一 前二項ノ警防區域ハ能ク河川ノ實況ヲ調査シ人員ノ多寡ニ勘ヘ且成ル可ク利害關係多キモノヲシテ之カ警防ノ任ニ當ラシムヘキ様定ムルコト
- 一 消防組員ノ指揮ハ警察官組頭小頭之ヲ掌ルコト

一 消防組員以外ノ出動者ニ就テハ分擔區域毎ニ之カ指揮者ヲ定メ市町村吏員又ハ有力者ヲ以テ之ニ充ルコト

一 人員ハ毎年二月及六月ノ兩度調査シテ異動ヲ訂正シ之ヲ警察官ニ通知スルコト

一 水害ニ際シテハ左記各號ノ實行ヲ期スルコト極メテ必要ナルカ故ニ各地ノ事情ニ應

シテ平素ヨリ之カ計畫ヲ立テ置クコト

イ 分擔區域間ノ連絡方法ヲ定メ置クコト

ロ 分擔區域受持ノ人員ハ材料置場等便宜ノ地點ニ集合セシムル様一定シ置クコト

ハ 四周ノ狀況ヲ明ニスル爲見廻人ヲ置クコト

一 警察官ハ戶口調査ノ際ヲ利用シ各自ノ分擔及集合地點等ノ周知方ヲ擔任スルコト

一 材料置場ハ少クモ警防區域毎ニ之ヲ設クルコト

一 材料置場ハ毎年二月及六月ニ市町村吏員警察官立會ノ上之ヲ検査スルコト

一 水害關係地域ノ地圖ヲ調製シ警防區域材料置場ノ位置重要ナル警防地點道路橋梁堤防護岸其ノ他ノ諸設備水防植樹地等必要ナル事項ヲ記入シ更ニ水害ヲ蒙リタル毎ニ其ノ浸水區域ヲ記入シテ之ヲ保存スルコト

一 水防記録ヲ編製シ平素豫定シタル計畫事項ヲ記入スル外水害毎ニ其ノ被害ノ程度警

防ノ狀況等ヲ記入保存シテ後日ノ計畫ヲ參考ト爲スコト
一 水害豫防組合アル地方ニ於テハ以上列記セル各項ノ實行ニ就テ市町村及消防組トノ連絡ノ方法ヲ定メ置クコト

八 山形縣消防義會規則 (改訂濟)

第一條 本會ハ山形縣消防義會ト稱シ事務所ヲ山形縣警察部警保課内ニ置ク

第二條 本會ハ消防組ノ健全ナル發達ヲ圖ルヲ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フモノトス

一 消防上功勞偉績アル消防組及消防組員ノ名譽ヲ表彰スルコト

二 別ニ定ムル所ニ依リ消防組員並其ノ遺族ニ共濟金ヲ贈與スルコト

三 消防ニ關スル學術技藝ヲ研究スルコト

四 消防組員ノ公共觀念及健全ナル心身ノ養成ヲ圖ルコト

五 前各號ノ外會長ニ於テ必要ト認メタル事業

第四條 前條第一號ニ依ル名譽表彰ハ效績狀ニ金品ヲ添ヘ之ヲ贈與スルモノトス但シ效績ノ程度ヲ斟酌シ效績狀ノミヲ贈與スルコトアルヘシ

第五條 名譽表彰、共濟金贈與ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ支部長ニ於テ行フ場合ノ

外支部長ノ具狀ニ依リ會長之ヲ行フモノトス

第六條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 名譽會員 消防上ノ學識功勞アル者ニ就キ會長之ヲ推薦ス

二 特別會員 消防ニ關スル職務ヲ有スル公務員中ヨリ會長之ヲ推舉ス

三 正會員 現ニ消防組員ノ職ニ在ル者

但シ山形縣蒸汽唧筒係ノ職ニ在ル者ハ山形市消防組ニ於ケル消

防手ト看做ス

第七條 新ニ消防組員ヲ命セラレタル者ハ其ノ當日ヨリ正會員トナリ又消防組ヲ脫退

シタル者ハ當然正會員ノ資格ヲ失フモノトス

第八條 正會員ハ本會會費トシテ毎年三月二十日マテニ左ノ金額ヲ支部長ニ納付スル

モノトス

一 組頭ノ職ニ在ル者 金參拾錢

二 小頭及其ノ代理ノ職ニ在ル者 金拾五錢

三 消防手ノ職ニ在ル者 金參錢

一旦納付シタル會費ハ如何ナル事情アルモ之ヲ返付セサルモノトス
第一項ニ依リ納付ヲ受ケタル會費ハ其ノ十分ノ七ヲ支部費トシテ支部ニ留置キ其ノ十分ノ三(厘位切捨)ハ支部長ヨリ毎年三月三十一日マテニ之ヲ本部ニ送付スルモノトス

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク役員ハ總テ無報酬トス

- 一 會長 一名 知事ヲ推戴ス
- 二 副會長 一名 警察部長ヲ推戴ス
- 三 幹事長 一名 警保課長ヲ以テ之ニ充ツ
- 四 幹事 若干名 警保課勤務ノ警部ヲ以テ之ニ充ツ
- 五 地方幹事 若干名 警察署長同分署長ヲ以テ之ニ充ツ
- 六 委員 組頭ヲ以テ之ニ充ツ

役員ノ公職上ノ代理者ハ當然當該役員ノ代理トナルモノトス

第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ幹事長、幹事、地方幹事及委員ヲ監督シ事務ノ統轄ニ任ス
幹事長ハ會計事務ヲ擔任スル外會長及副會長ノ命ヲ受ケ幹事及地方幹事ノ事務ヲ監

視ス

幹事ハ會長及副會長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ分掌ス

地方幹事ハ支部長トシテ支部事務ヲ統轄スルノ外本會事務ヲ擔任ス

委員ハ地方幹事ノ命ヲ受ケ其ノ所屬消防組内ノ事務ヲ擔任ス

第十一條 本會ノ資産左ノ如シ

- 一 正會員ノ會費ニ依ル收入
- 二 公私ノ寄贈ニ係ル金品
- 三 本會ノ資産ヨリ生スル收入
- 四 前各號以外ノ雜收入

第十二條 本會ノ資産ハ左ノ各號ニ依リ管理及取扱ヲ爲スモノトス

- 一 寄附金品ハ總テ本部ニ於テ之ヲ保管スルコト但シ支部指定寄附ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 現金及有價證券ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルコト
 - 三 不動産及現品ハ適宜ノ用法ニ使用スルコト
- 會長ハ確實ト認ムル者ニ限り資産ノ貸付ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第十三條 警察署同分署區劃ニ依リ各地ニ本會支部ヲ設ケ山形縣消防義會何々(所在地名ヲ冠ス)支部ト稱ス

第十四條 支部事務所ハ各其ノ地警察署同分署内ニ置ク

第十五條 支部ニ支部規則ヲ設クヘシ

支部規則ノ制定、改正ハ總テ會長ノ承認ヲ受クヘキモノトス

第十六條 本會ノ集會ハ之ヲ分チテ代表委員會及支部委員會ノ二トス

代表委員會ハ支部委員代表者ノ集會ニシテ必要ニ應シ山形市(時宜ニ依リ山形市以外ノ地ニ於テ開クコトヲ得)ニ之ヲ開キ支部委員會ハ其ノ支部委員ノ集會ニシテ會長ノ承認ヲ得テ隨時各地ニ之ヲ開クモノトス

代表委員會ニハ本會副會長支部委員會ニハ支部長其ノ議長トナルモノトス

第十七條 代表委員會ニ附議スヘキ事項ハ會長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ムルモノトス

代表委員ハ本會ニ附議スヘキ事項ヲ提出スルコトヲ得但シ其ノ採否ハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十八條 支部委員會ニ附議スヘキ事項支部長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ムルモノトス

第十九條 代表委員會及支部委員會ハ各其ノ總委員ノ過半数出席スルニ非サルハ議事

ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員會及支部委員會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十條 本會ニ經費收支簿其ノ他必要ナル簿冊ヲ備ヘ其ノ種類ハ會長之ヲ定ム

第二十一條 本會ノ會計年度ハ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル

第二十二條 本則ハ代表委員會ノ議決ヲ經ルニ非サレバ改正スルコトヲ得サルモノトス

附 則

本則第八條ノ會費ハ本年ニ限リ七月二十日マデ之ヲ支部長ニ納付シ支部長ハ同月三十一日マデ其ノ十分ノ三ヲ本部ニ送付スルモノトス

九 山形縣消防義會共濟金贈與規則

第一條 共濟金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ本人(第一號第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ遺族ノ一人)ニ贈與スルモノトス

但シ組頭、小頭(代理ヲ含ム)ノ職ニ在ル者ニ對シテハ各其ノ二割ヲ加フ

一 職務上死亡シタル者

金三十圓以上百圓以下

- 二 職務上傷疾ヲ受ケ職ニ堪エズ退職シタル者 金十圓以上五十圓以下
 - 三 職務上傷疾ヲ受ケ七日以上休業スルニ至リタル者 金五圓以内
 - 四 在職中死亡シタル者 金十圓以内
 - 五 在職十年以上ニシテ老衰又ハ疾病ノ爲退職シタル者 金十圓以内
 - 六 自己ノ過失ニ因ルニアラズシテ火災其ノ他ノ災厄ニ遇ヒタル者 金十圓以内
 - 七 前各號ノ外會長ニ於テ共濟金ヲ贈與スルノ必要アリト認ムル者 金額不定
- 特別ノ事情アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ贈與金額ヲ増減スルコトアルヘシ
- 第二條 前條第一項第三號乃至第六號ニ該當スル者ニ對スル共濟金ノ贈與ハ能ク其ノ程度情狀ヲ參酌シテ支部長之ヲ行フヘシ
- 第三條 支部長ニ於テ贈與スル共濟金ハ總テ支部費ヨリ之ヲ支出スルモノトス但シ時宜ニ依リ其ノ一部又ハ全部ヲ本部費ヨリ補助スルコトアルヘシ

十 山形縣消防義會規則取扱手續

- 第一條 本手續ニ於テ義會規則ト稱スルハ山形縣消防義會規則ヲ謂ヒ贈與規則ト稱スルハ山形縣消防義會共濟金贈與規則ヲ謂フ
- 第二條 義會規則第五條ニ依リ名譽表彰、共濟金贈與ニ關スル具狀ヲ爲ストキハ其ノ事實組名職氏名勤績年數共濟金ヲ受クヘキ遺族氏名死亡者トノ續柄經費ノ關係其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ
- 第三條 支部ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘテ常ニ整理シ置クベシ
- 一 經費收支簿 第一號様式ニ依ル
 - 二 財産臺帳 第二號様式ニ依ル
 - 三 日誌 第三號様式ニ依ル
- 第四條 支部ニハ證憑書類編冊、往復書類編冊及諸書類編冊ヲ備ヘ經費收支ニ關スル證憑書類ハ之ヲ證憑書類編冊ニ一般往復ニ關スル書類ハ之ヲ往復書類編冊ニ其ノ他ノ書類ハ總テ之ヲ諸書類編冊ニ編綴スベシ
- 第五條 支部長ハ一ケ年間ニ於ケル會員數ノ異動ヲ取調毎年四月十日マデ第四號様式ニ依リ之ヲ會長ニ報告スヘシ

第三號樣式

大正 年

日

誌

山形縣消防義會何支部

講 筵	本日ヨリ向フ一週間某所ニ於テ講筵ヲ開催ス 狀況何々(詳細記載ノコト)	月 日
會 葬	會員何某職死シ本日葬儀施行ニ付支部長何某外某 ヲ會葬ス	月 日
派 遣	某地ニ於テ消防組演習執行ニ付會員何某ヲ見學ノ 爲全地ニ派遣ス	月 日

一支部事務ニシテ後日ノ參考トナルヘキ
モノハ總テ本簿ニ記載シ置クヘシ

第二號樣式

大正 年起

財 產 臺 帳

山形縣消防義會何支部

種 類	何 々	何 程	摘 要
	何年何月何日	何氏名ヨリ本支部指定寄附	
	何年何月何日	何日購入	
	何年何月何日	何日不用賣拂	

一現金以外ノ資産ニシテ支部ニ屬スルモ
ノハ總テ本簿ニ記載スヘシ
二賣却其ノ他ノ處分ニ依リ所有ヲ離レタ
ルトキハ其ノ事由ヲ摘要欄ニ朱書シテ
抹消シ置クヘシ

、朱書

第四號樣式

考 備	計	組頭	前年三月三十一日現在	入會	脫會	三月三十一日現在
		小頭				
		部長				
		代理				
		消防手				

山形縣消防義會長殿

會員異動報告

大正 年 月 日

山形縣消防義會何支部長 啓

一 毎年三月三十一日ヨリ既往一ケ年間ニ於ケル異動ヲ調査スヘシ

一 消防手ヨリ部長代理者トナリタルモノアルトキハ消防手ハ之ヲ脱會ノ欄ニ記載シ部長代理者ハ之ヲ入會ノ欄ニ記載スヘシ

一 部長代理者ヨリ小頭トナリ小頭ヨリ組頭トナリタル場合ノ如キ亦之ニ準ス

第五號樣式

何消防組 委員氏名殿	大正 年 月 日	右領收候也	組頭 名分	山形縣消防義會 何支部長氏名 啓
		金	部長 名分	
		金	代理者 名分	
		金	消防手 名分	
		金	消防手 名分	

一金也 大正年分會費

內譯

組頭 名分

小頭 名分

部長 名分

代理者 名分

消防手 名分

右領收候也

大正 年 月 日

山形縣消防義會

何支部長氏名 啓

第六號樣式

納付書		左記		一金九拾錢也		左記會費ノ十分ノ三	
組名	組頭	小頭	代理頭	消防手	計		
何消防組	一	一	二	二	一〇	一七	
何消防組	一	二	二	二	一〇	二五	
合計	二	六	四	三〇	四二		
會費	六〇錢	九〇錢	六〇錢	九〇錢	三〇〇	三〇〇	
右及納付候也							
大正 年 月 日							
山形縣消防義會長殿							
山形縣消防義會何支部長 團							

第七號樣式

經費收支調書		前年度繰越及本年度收入高		一金百圓也		前年度繰越及本年度收入高	
金七拾圓也		本年度支出高		金七拾圓也		本年度支出高	
金參拾圓也		殘金高		金參拾圓也		殘金高	
年	月	日	收入	支出	殘	摘要	
前年	ヨリ	越	五 〇〇〇	四 〇〇〇	一 〇〇〇		
大正二年	五月	十日		二 〇〇〇	三 〇〇〇	何某見學旅費	
	六月	十二日			三 〇〇〇	何年分會費	
	七月	六日			八 〇〇〇	何某ヨリ寄附	
	七月	十五日			五 〇〇〇	講進開催費	
	十二月	九日			三 〇〇〇	何々	
合計			一 〇〇〇〇	七 〇〇〇	三 〇〇〇		
右及報告候也							
大正 年 月 日							
山形縣消防義會長殿							
山形縣消防義會何支部長 團							

消防終

◀ 正藍染色保險 ▶



誠 實
勉 強



消防被服一式
大勉強請負

- ▲ 黒紋付色物紋付類。
- ▲ ちらし模様付小紋形付類。
- ▲ 神佛。
- ▲ 御旗。
- ▲ 幕。
- ▲ 幟り類。
- ▲ 風呂敷。
- ▲ のれん。
- ▲ ゆたん類。
- ▲ 御名入れ染物一式。

山形市薬師町四三三

上繪屋染工場

○ 弊店ハ例年御祝トシテ舊正月二日ヨリ二月三十日マデ染物御注文ノ御客様ヘ特ニ割引亦ハ福引ヲ進呈仕候

廣告

米澤市銅屋町

米澤鐵工株式會社

山形市 電話六四番 電略(テツ)

唧筒製造販賣

品質 善良
價格 低廉

▲永ク使用ニ堪ヘ良成績ヲ顯シツ
所ニシテ是本社ノ特色ナリ

御申越シ依リ定
價表並上可申候

當所製造の唧筒は運轉容易に
堅固にして放水力殊に特長



各種保險唧筒製造所

明治四十一年第六回
奥羽六縣聯合共進會
第四等褒賞授與

尚唧筒各號圖入定價表は
御一報次第無料送呈す

明治三十九年第五回
奥羽五縣聯合共進會
第四等褒賞授與

今川元治 (毛) ハ又(毛O)路電 町上市形山

◎ 賣 販 價 特 ◎

消 防 手 用 雨 具

(筒袖外套形頭巾付三四拾錢以上各種
防水ゴム引特製品) 着壹圓より各種

合羽防水布製造元

山形市十日町

各部消防御用 藤田雜貨店

電話二百十番
振替一〇二六二番
東京

ハダシ足袋十數種防寒具洋
服附屬等も特に割引仕候

消防組

警 鐘

- ▼ 金燈籠各種
- ▼ 唐金火鉢各種
- ▼ 床置物類各種
- ▼ 銅像。銅牌
- ▼ 裝飾品各種
- ▼ 鐵瓶類各種
- ▼ 神佛具一式等大勉強廉價に販賣仕候



蓄音器 眼鏡 時計 指輪 時計附屬品

月賦販賣も仕り候

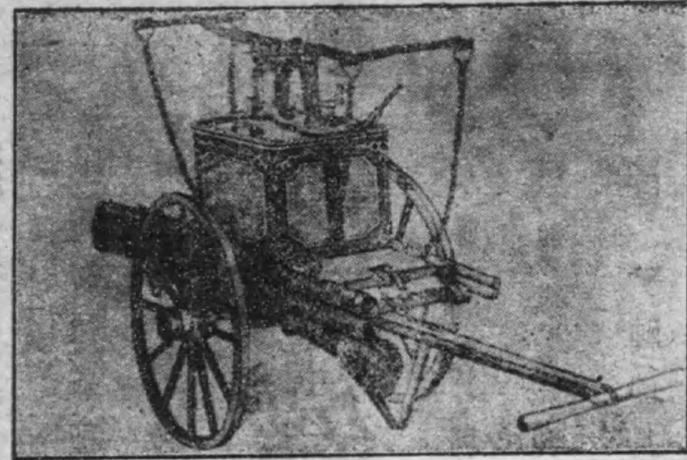
日本蓄音器商會特約店

山形市十日町

蜂屋時計店

電話二百十番
振替東京二二三五四

消防御用は特別大勉強仕り候



鑄物師及機械製造所

山形市鋼町二百二番地

庄司治右衛門

電話(シヨ)又ハ(チ)

各種保險唧筒製造販賣
其他附屬品、纏、布桶、消防器具一式

▲本縣に於ける唧筒製造者の元和▼

弊店儀祖先より數代鑄工を業とし家具、神佛器具其他大小さなく從事罷在候處明治七年初めて唧筒製造の途を開き萬機舶來を模範とせる唧筒は極めて堅牢を主とし普く需用に應じ申候偶々明治十年他の輸入上等品と試み命せられ曾て敗後より下用たること無之大に賞賛を博し申候爾來其の成績をより遠近の各位より警備用として續々御注文の御引立を蒙り今日の盛況なるを見らるに至り候之れ偏に各位の購に於て深く奉謝候今後は聊か右願恩の爲め益々機械の堅牢を主とし特久的保險を以て廉價大勉強調進可仕候間何卒筒先長く水の切れ間なく續々御購求被下成度謹告仕候也 頓首

輕便ポンプの大王



本器の構造と
特長

- 一、全部金屬製高一尺五寸巾九寸方形、ホース三尺目方三貫六百外見頗高尙優美、
- 二、同機水勢五十尺以上方向自由水量一斗八升を入る全機ツク管鎗は普通消防唧筒
- 三、普通消火器の如く藥品を用ゐるに比し使用後物質を損せず水鐵砲式(筒形)の如く使用中斷水せず足踏式の如く使用に熟練を要せず木鐵混合製の如く濕乾の爲め局部に故障を生ずず品質極めて堅牢使用法極めて輕妙何十年使用するも腐蝕破損せざる等の特長を有す
- 四、取扱の自由使用の輕妙は階上床下の別なく克く婦女子にして有事に際し突差の間十二分の効果を現し又消毒用には噴霧器に取替へ又夏秋の候庭園、道路、屋上等の撒水用として効用多大なり

製造販賣元

定價金拾貳圓也
附屬器具消毒用噴霧器ゴム管壹丈貳尺附
金貳圓八拾錢也

猪飼火防器商店

名古屋市中區古渡町三丁目二十五番地
振替口座(東京)二六五九六番

▲御注意……類似品有之候に付猪飼製造の名稱に御注意被下度候
▲特約販賣店……な募集す御希望の方は速に御申込有之度候

最新流行之靴



消防御用靴

防水防寒靴製造元

高橋本支店

地方の御注文は消防用靴、防水靴、防寒靴、と御指定を乞ふ

山形市七日町辻東

本店 高橋靴店

電話五五八番

支店 高橋清行

奥羽線新庄驛前

消火器界之霸王

◀明證の力効火消▶

朝日商會製造 第一七八三號 粉劑消火器

大正三年一月十五日午前三時山形市雁崎公園地内ニ於テ前記粉劑消火器ノ消火
力ヲ實驗シタルニ其ノ概況左記ノ通ニシテ消火効力ノ偉大ナルコトヲ確認ス
一、高サ十五尺幅七尺ノ假裝家屋内ニ多量ノ石油ヲ灌キタル燃料ヲ積重ネテ點
火シ炎々無天ノ勢ヲ以テ燃上リタル際同粉劑ヲ撒布シタルニ僅カニ一本ヲ
要シテ全ク消止メタリ

大正三年一月十六日

山形警察署長 警視 小澤正五郎 印



◎本器定價

壹本正價 金參圓五拾錢 (廿九年有効保險)

◎特別御注意 近來本器價値益々昂がるを羨み奸商等が本器に類似せる偽粉劑
消火器を坊間ニ薦むる者あり然れども眞實に發自の生命と財産とを安全に保護セ
んニ欲せば彼等の巧言令辭に迷はず「專賣特許第一八六四三號赤手印日高式粉末
劑消火器」の文字を御認讀の上陸續御用命あらん事を祈る

◎實地試驗 御希望者は電話又は端書にて御申込入り相成度即刻店員出張の上無
料にて實驗に可供候御詳細なる事項は御照會次第御回報可致候

山形縣一下手販賣所

山形市旅籠町

和洋酒類 林商 洋酒問屋

電話一四一五番 東京一〇八七番

萬染物

消防組被服御用店

上繪形付
印半天
各名入手種

羽前小松町

山田染色工場

山田彌左衛門

大勉強迅速調進所

器具部未明一

消防組法被
大勉強調進

山形市勤工場裏通
三浦染物店

電話(三七)

農蠶器具元
製作販賣

山形市三浦前
三藤商會

電話三八番
振替東京一三七〇六

特の館本館の位

新築落成

客室閑靜

取扱丁寧

誠實勉強

色

山形市七日町新道

消防組
御定宿

よね屋旅館

電話七二五番
電略(シキ)又ハ(シ)

全市中央

諸官廳、各學校、病院、兵營等近

用達便利

置

器火消末粉印星一タス

有効證明書の数々

スター星印粉末消火器の消火効力の偉大なることは實地試験の結果各府縣警察署、著名會社工場より數百の證明書を得たるも一々之れを列記すること不能に付其の重なるものを擧ぐれば左の如し以て確實なることを證するに足るべし

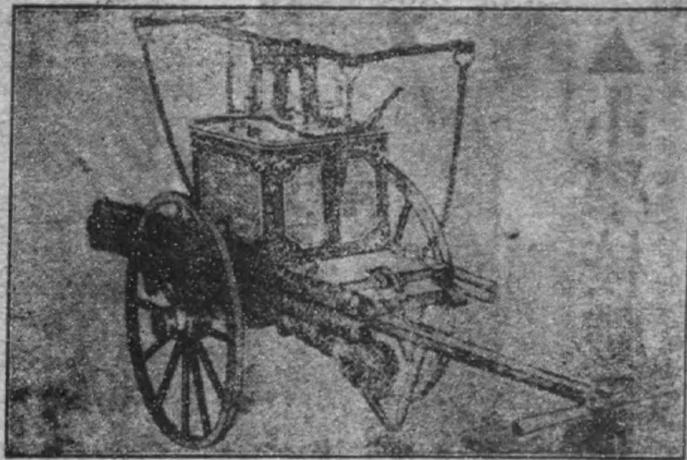
一、神奈川県警察部保安課長 一、兵庫縣警察部保安課長 一、新潟縣警察部 一、山形警察署 一、米澤警察署 一、長井警察署長 一、天童警察署 一、寒河江警察署 一、左澤警察分署長 一、小松消防組頭 以上光榮多大の證明を賜りたるのみならず本器普及の速かならんことを督勵せられ且輕便なれば火防夜警者に携帯せしめて奇巧あらんことを贊辭を得たり



注意
近來消火劑にして石灰を混じりし者あり且有害品を混じりし者あり此種を購するものあり此種を購するものは大正元年秋以來の製造品にして歴史なく特許にあらざる且つ薬力不變の頗る無責任なる事を茲に聲明す

長サ一尺七寸直徑二寸重量五百匁
定價金四圓 錢五拾

細育スタンダード、フハイヤ、アップライアンス製造會社
直輸入元 (横濱市山下町九十六番) ジョージ、アール、アール、レン、商會
山形縣一手販賣元 (山形市旅籠町) 三三、浦、商店
◎縣下代理店及販賣人を募集す希集者は申込あれ
◎特約 濟 置賜一市二郡、西村山郡 ●當分の内披露として ▲割引特價販賣▼
◎尙詳細の説明書は御一冊次弟無代送呈す



保險附唧筒各種、纏布桶、
ゴム吸管、ブーク水管、附屬品一式、
其他消防器具製造販賣所

山形市銅町

御用
唧筒師

長長谷川清太郎

電信略號(ハセ)

尙詳細なる唧筒各種圖入定價表等は御一報
次第御高覽に可供候



消防組
 制服
 制帽
 足袋
 類調製
 腹掛
 刺子
 御用

八ッ沼號

諸官衙被服
 受負御用商

安藤市兵衛

山形市七日町四五六
 電話二二六六十五番
 電略(八一又ハア)

▲小學校職員改正制服。制帽調製所

尙御一報次第店員參上仕リ精々勉強調進可仕候

品質優良 物ヲ選ニ安價ニ御用應可申候

營業品要目

正正印頭高足
 服帽天巾丈袋
 正正印頭高足
 服帽天巾丈袋

消防「賣捌所」

山形市旅籠町六〇三

大森兵吉

山形市旅籠町議事堂北通

原田繁治

山形市旅籠町新道

加藤才太郎



◎御注文ノ折ハ擔當者中何レニ御注文相成候共店員出張迅速ニ御用達可申候
 ◎尙ホ消防組御用機械、器具及附屬品等最モ確實ニ御取次仕リ御便宜相計可申候

296
208

大正三年二月廿五日印刷
大正三年三月十日發行

(正價金參拾五錢)

複製
不許

編輯者兼

船山耕作

印刷者

五十嵐幸吉

印刷所

山形活版社

發賣元

山形市香澄町小鏡
山形市旅籠町
(三浦新兵衛商店東)

三友商會

千

年

山形市香澄町二五八

終



117
116
115
114
113
112
111
110
109
108
107